

認知症になって住みやすい街をつくらう！

「認知症」は、実は病気の名前ではなく、脳の病気や脳に影響を及ぼす体の病気により知識や技術が失われ、社会生活に支障をきたすようになった状態のことをさしています。「認知症」の方は年々増加しており、高齢者だけでなく若い人でも誰でも発症する可能性があります。当センターでは、認知症になっても安心して暮らせる街づくりに取り組んでいます。

●認知症の人とその家族等が気軽に集い、交流できる場所として「恋・鯉カフェ」を開催しています。



●地域住民、スーパーや金融機関の従業員、小学校・中学校・高等学校の生徒等を対象に、認知症についてを理解し、認知症の人とその家族等を支援する「認知症サポーター」になってもらうための活動を進めています。



●認知症に関する相談窓口として、
広島市己斐・己斐上地域包括支援センター (082-275-0087)
広島市西部認知症疾患医療センター (082-270-0311)
広島市認知症コールセンター (082-254-3821) などがあります。

●当センターでは、地域で活動している医療・介護職従事者が集まって、認知症の方が住みやすい街にするにはどうしたらいいかを話し合う「恋まちプロジェクト会議」を定期的を開催しています。必要に応じて勉強会も開催しています。

●認知症は非常に複雑で種類によって治療法や完治の可能性が異なります。できるだけ早く専門医を受診し診断を受けましょう。認知症の専門医は、物忘れ外来がある病院や精神科・脳神経内科です。



●広島市では、認知症高齢者等を事前に登録し行方不明になったときにできるだけ早く発見し保護するための「徘徊SOSネットワーク」や、スマートフォン等で読み取ることのできるQRコードが印字されたラベルシールを交付する「どこシル伝言板」などの情報共有サービスを展開しています。

【お問い合わせ先】

西区厚生部地域支えあい課(082-294-6289)



地域包括支援センターでは、認知症の予防活動や、進行に合わせた相談先、サービスなどをまとめた「認知症あんしんガイドブック」を配布しています。ご希望の方はお申し出ください。

ご心配なことがありましたら、
まず、地域包括支援センターにご相談ください。